

相模湾より採集された *Psolidocnus tegulata* (ミツクリカクレナマコ; 和名新称) (ナマコ綱; 樹手目) の記録

倉持 卓司・倉持 敦子

Takashi Kuramochi and Atsuko Kuramochi:
Record of *Psolidocnus tegulata* (Holothuroidea; Dendrochirtida)
Collected from Sagami Bay, Miura Peninsula, Central Japan

はじめに

Psolidocnus tegulata (Augustin, 1908) は、浦賀水道の水深 180 m をタイプ産地として記載されたキンコ科の一種である (Augustin, 1908)。本種は、記載以降、これまでに採集記録はない。筆者らは、およそ 100 年ぶりに *P. tegulata* (Augustin, 1908) に同定される標本を相模湾から採集したので報告する。

資 料

産地：神奈川県三浦市黒崎海岸 (図 1) 潮間帯岩礁
2015 年 3 月 24 日 1 個体
標本番号 HSM-E-0202 (葉山しおさい博物館棘皮動物登録番号)

記 載

Phylum Echinodermata 棘皮動物門
Class Holothuroidea ナマコ綱
Order Dendrochiroidea 樹手目
Family Cucumariidae Ludwig, 1894 キンコ科
Genus *Psolidocnus* O'Loughlin & Alcock, 2000
Psolidocnus tegulata (Augustin, 1908)
ミツクリカクレナマコ (和名新称)
(図 2a, b; 図 3, 1a-5d)

99% エタノール固定標本の計測値は、体長 12.4 mm、体幅 6.7 mm。体は五角柱状で前・後端に向かって細くなる。生時、背面は黒色、腹面は褐色。管足は灰白色で先端部は白色 (図 2, a-b)。体色は 99% エタノールで固定しても、生時と大きな変化はない。吻入部は体内に収縮する。触手は灰白色で 10 本、端部で樹状に分岐する。腹面の 1 対は短い。石灰環に後方突起はなく、先端部は交互に二股型と凸型になる。各歩帯には、大きく長い 2 列の管足が並ぶ。腹面部の管足は背面に比べ若干短い。間歩帯には管足はない。呼吸樹は 2 本。ポリー氏嚢は 1 個。

体壁には、中空部の発達が悪い籠状骨片 (図 3, 1a-1b), 4~5 の孔をもつ釘状骨片 (図 3, 3a-3d) と、小型の放射状十字骨片 (図 3, 4a-4d) および、少数の穿孔板 (図 3, 5a-5c) をもつ。触手には、全面に孔をもつ細長い板状骨片をもつ (図 3, 2a-2c)。

和名のミツクリカクレナマコ (箕作隠海鼠) は、海藻などの間に生息する生態と、本種のシノニムにあたる *Cucumaria capensis* var. *parva* Mitsukuri, 1912 を記載した、東京大学三崎臨海実験場所長の箕作佳吉に因んで提唱する。

比 較

今回相模湾から採集された *P. tegulata* は、Mitsukuri(1912) により城ヶ島沖から採集された標本をもとに *C. capensis* の変種 *C. capensis* var. *parva* Mitsukuri, 1912 とされていた。また、Oshima(1915) は *C. capensis* var. *parva* を *C. capensis* と同一種とみなしていた。Thandar (2008) は、*C. capensis* のタイプ産地である南アフリカ・ケープ岬沖より採集した標本をもとに、*C. capensis* の再記載を行い、*C. capensis* の属位を *Ocnus* 属に変更するとともに、Mitsukuri(1912) が報告した *C. capensis* var. *parva* は *O. capensis* とは別種である可能性を示唆した。

Psolidocnus tegulata (Augustin, 1908) は、南ア

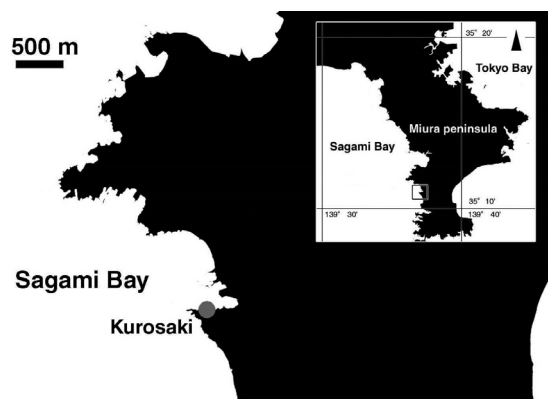


図 1. 採集地.

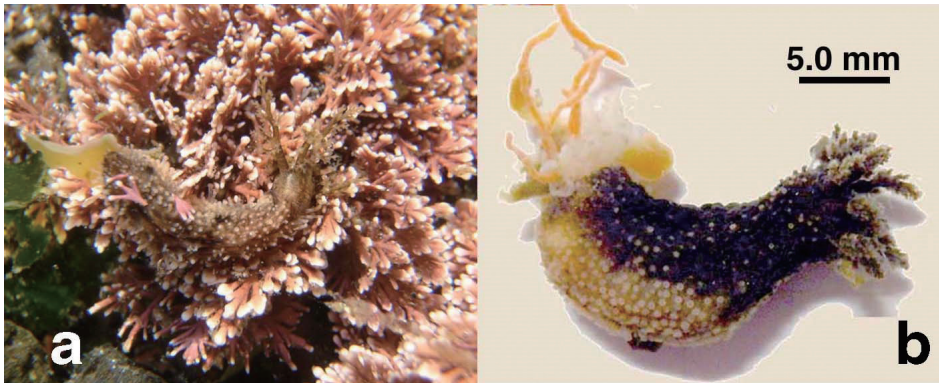


図2. ミツクリカクレナマコ
Psolidocnus tegulata
(Augustin, 1908).
a: 生態 (神奈川県三浦市黒
崎海岸 2015 年 3 月 24 日
倉持卓司撮影). b: 全体
(HSM-E-0202).

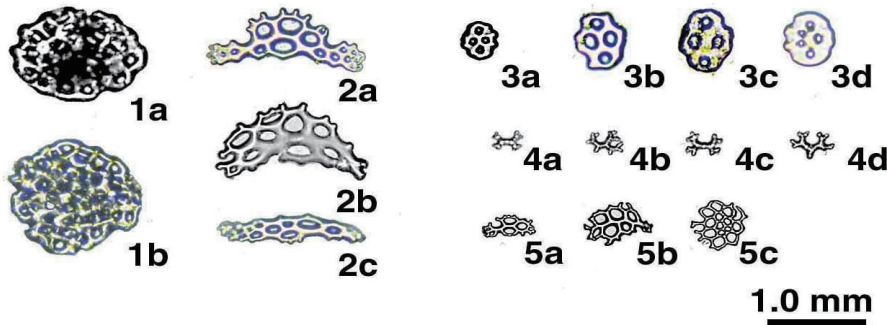


図3. ミツクリカクレナマコ
Psolidocnus tegulata
(Augustin, 1908) の骨片 .1a-
1b, 籠状骨片 . 2a-2c, 板状骨
片 . 3a-3d, 釘状骨片 . 4a-4d,
放射状十字骨片 . 5a-5d, 穿孔
板骨片 .

フリカ・ケーブ岬沖水深 180 m をタイプ産地として記載された *Ocnus capensis* (Théel, 1886) に類似するが、*O. capensis* の釘状骨片は、縁部に針状の突起をもつことで本種と区別される。また、Mitsukuri (1912) により相模湾から採集された標本をもとに記載された *Cucumaria capensis* var. *parva* Mitsukuri, 1912 は、*P. tegulata* (Augustin, 1908) と同一の骨片をもつことから本種のシノニムと考えられる。

本種は、Augustin (1908) により、*Cucumaria* 属の一種として記載されたが、O'Loughlin・Alcock (2000) によるキンコ科の各属の再定義に従い、4 つの穴をもつ釘状骨片と放射状十字骨片をもつことから、本報告では *Psolidocnus* 属に帰属させた。

分布

ミツクリカクレナマコは、これまでにタイプ産地である浦賀沖の水深 180 m 以外からの記録はない (Augustin, 1908)。また、Mitsukuri (1912) により記載された *Cucumaria capensis* var. *parva* Mitsukuri, 1912 も記載以後の採集記録はない。筆者らの調査では、三浦半島沿岸域の黒崎海岸、矢作海岸からこれまでに本種を記録している (倉持・倉持, 未発表資料)。

生息環境

筆者らの調査で得られたミツクリカクレナマコは、潮間帯岩礁に生育するポリヒバ *Corallina pilulifera* Postels & Ruprecht 1840 の群落中に隠れるようにして生息していた (図 2-a)。また、Mitsukuri (1912) は、三崎沖の水深 5 ~ 7 m 付近から採集されたマガキ *Crassostrea gigas* (Thunberg, 1793) の殻に

Cucumaria capensis var. *parva* Mitsukuri, 1912 が海藻のように付着していたことを記録している。

謝 辞

本報告を投稿するにあたって、匿名の査読者より有益な助言をいただいた。感謝申し上げる。

引用文献

- Augustin, E. 1908. Ueber japanische Seewalzen. Munchen Abh. Akad. Wiss. *Beitrage zur Naturgeschichte Ostasiens*, (1906-1909): 1-44.
- Mitsukuri, K. 1912. Studies on Actinopodous Holothuroidea. *Journal of the College of Science, Imperial University of Tokyo*, 39(2): 1-284.
- Oshima, H. 1915. Report on the holothurians collected by The United States Fisheries Steamer Albatross in the northwestern Pacific during the summer of 1906. *Proceeding of the United States National Museum*, 48 (2703): 213-291.
- O'Loughlin, P. M. and N. Alcock 2000. The New Zealand Cucumariidae (Echinodermata, Holothuroidea). *Memoirs of Museum Victoria*, 58(1): 1-24.
- Thandar, A. 2008. Additions to the holothuroid fauna of the southern African temperate faunistic provinces, with descriptions of new species. *Zootaxa*, 1697:1-57.
- Théel, H. 1886. Report on the Holothurioidea dredged by H. M. S. Challenger during the years 1873-76. 290pp, in: Thomson, C. W. & Murray, J. Report of the scientific results of the voyage of H.M.S. Challenger during the years 1873-76 under the command of Captain George S. Nares and Captain Frank Tourle Thomson. Zoology, Vol. XIV. London, Edinburgh, Dublin.

倉持卓司・倉持敦子：神奈川県横須賀市芦名 2-6-3-504